

推進校別中間報告書

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
おのみちしりつながえしょうがっこう 尾道市立長江小学校	広島県尾道市長江二丁目 8-番 12 号	0848-37-3911	1 3 2 名	

2 研究課題

体験活動等を生かした多様な取組の工夫による道德教育の充実
文化や伝統を大切に作る心を育てる道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

道德性が高まる知の創造 - 人との「かかわり」を通して -

(2) 研究主題の設定理由

論理的な思考力・表現力の育成と人との「かかわり」

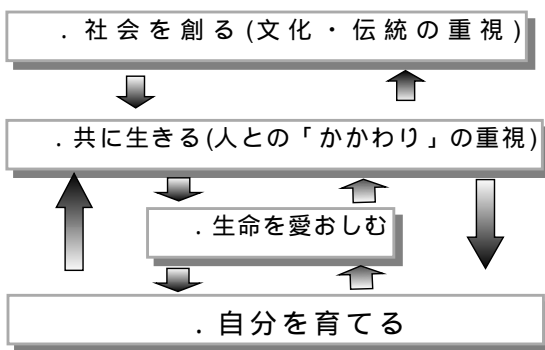
平成 15 年度は、研究主題を「知を創り 知を生かす子どもの育成」とし、「論理的な思考力・表現力」の育成を国語科・算数科を中心に研究してきた¹⁾。その過程で、論理というものは、人との「かかわり」があってこそ、組み立てられよりよく働くものであるということも、明らかになってきた。

人との「かかわり」の中で心が動かされ、友達と考えを伝え合う。そして、心の高まりとともに学習意欲も高まる。更には行動につながる。このような人との「かかわり」の上に成り立つ論理的な思考力・表現力を育成する学習を、道德性の高揚という視点からも関連づけて検討し、学力の向上と道德的価値意識を育むことが、同時に可能だと考えた。

そこで、本年度は、論理的な思考力・表現力の育成を国語科・算数科を中心に継続しながら、全教育活動を通じて行う道德教育を人との「かかわり」という面から意識し、道德性と学力相互の向上のため、それぞれがよりよい関係構築を目指して研究していくこととした。

文化や伝統を大切に作る心を育てる道德教育と人との「かかわり」

また、自分が生まれ育った郷土や国は、心の原風景となり精神的な拠り所となる。その郷土や国と自分との間を媒介してくれるのが、文化・伝統である。文化や伝統は、人との「かかわり」の中で創造され、育まれていく。



このことは、自分を郷土や国との「かかわり」の中でとらえ、社会及び国家の成員として必要な道德性を図ること(道德の内容の 4 の視点)を中核としながらも、他の人との「かかわり」(道德の内容 2 の視点)に発展する。また、4 の視点から、郷土や国の、あるいは世界の自然や崇高なものとの「かかわり」(道德の内容 3 の視点)にも発展させることができる。

最後には、道德の内容 4 の視点や 2 の視点から、人と「かかわり」合って得た感じ方や考え方を自分に照らして、自己のあり方を自分自身で見つめていくこと(道德の内容の視点 1)が可能となる。

このように、「文化や伝統を大切に作る心を育てる道德教育の充実」は、4 の項目を起点として、他の項目を有機的に結びつける可能性を秘めているという点で、特に、着目し研究していくこととした。

4 第 1 年度の研究の特色及び概要

(1) 研究上のキーワード

「ふりかえり」... 他者と「かかわった」理想的・魅力的、あるいは有為な学びの経験を引き出し参考にすること。

「かかわり」... 「ふりかえり」に拠って、自分と他者が相互に働きかけ、繰り返し応答し続けること。

「けいこ(まね)」… けいこ(まね)に着目した学びの段階

【表 - 1】

	伝統・文化	学 力	道 徳 性
A	徹底的に師匠のまねをする段階。 師匠のまね = 主体性のない模倣。	与えられた理想的・魅力的、あるいは有為なモデルを、繰り返し繰り返し模倣し、身につける段階。	繰り返し、理想的・魅力的、あるいは有為な道徳的モデルを提示してくれる人と「かかわり」続け、基本的生活習慣、善悪の自覚等、社会生活の規範を身につける段階。
B	他者と自分との違いを見極め、美しさを追究していく段階。 他者の良いところのまね = 本質をつかんだ主体的なオリジナルの創造。	自分で理想的・魅力的、あるいは有為なモデルは何かを取捨選択したり組み合わせたり、更には、今までにはなかった新たなモデルを自分で創り上げていく段階。	理想的・魅力的、あるいは有為な道徳的モデルは何かを、多様なモデルを持つ人と「かかわり」ながら内省し、道徳的価値を主体的に追究する段階。
C	客を楽しませることができる段階。 客の心の中のまね = 相手が考えている美しさとの応答。	身につけたことを基に、自分が他者のモデルに、他者が自分のモデルにと相互になり得ることを自覚し、ともに高まろうとする段階。	自分が他の人と「かかわり」ながら、理想的・魅力的、あるいは有為な道徳的モデルになり得ることを相互に自覚し、夢や希望を持って、共に高まろうとする段階。

【表 - 1】伝統・文化のけいこ(まね)の段階は、知識を継承し発展させるため、先人が生み出した人との「かかわり」の段階とも言える。これを、学力の向上のための学び方や能力育成のための人との「かかわり」の段階、あるいは、道徳的価値の自覚のための理想的・魅力的、あるいは有為な道徳的モデルを提供してくれる可能性のある人と持つべき「かかわり」の段階として、示唆を与えてくれている。

(2) 道徳の時間で実践上重点を置いた事項

望ましい「かかわり」を生み出す5つの時間と場の設定

ア	抛るべきモデルとなる「かかわり」合いの経験や過程を「ふりかえる」時間と場。
イ	「ふりかえた」内容を「かかわり」合わせる時間と場。
ウ	「かかわり」合うことで自分の思いや考えを見つめ直すことができる時間と場。
エ	「ふりかえり」へのこだわりが、「かかわり」合いの中で尊重される時間と場。
オ	課題や問題が解決した後に学びの経験や過程を「ふりかえる」時間と場。

全教育課程で、左の5点を重視した。道徳の時間においては、自分自身との対話を促す役割取得に着目しつつ、特にウを重視した。²⁾

学期毎の道徳教育計画の作成

4月当初に、年間計画を作成したのち、各学期の中盤に中期的な見通しを持って各学期計画の修正と次学期計画を作成した。³⁾

研究の柱を意識した指導案の作成

人とのかかわり
児童相互の「かかわり」
教材に位置づく人との「かかわり」
役割取得
伝統・文化

全ての時間において、指導案作成の際、人との「かかわり」をどのように行い、深めていくのか明示するようにした。

道徳の時間においては、特に、項目を立ち上げて、児童の望ましい在り方や目指す方向性について、左記の点を明示するようにした。

これらは、授業や授業後の子ども達の道徳的実践の有り様を評価する際の視点ともなっている。⁴⁾

道徳の時間の自作資料の作成

第1学年	「こままわし」
第2学年	「ちいきはなかよし」
第3学年	「力持ちの和七」
第4学年	「千光寺公園のさくら」
第5学年	「おのみち帆布物語」
第6学年	「めざせ、世界文化遺産」

第一の目的は、児童・学校・家庭・地域の良さや実情に合わせた内容の資料を作成することが目的である。

第二の目的は、教師の資料分析力の向上が目的である。作成の際に意図したことは、全国どこへ行っても、使える資料をつくるということである。

今年度は、各学年1本ずつ作成し、全て研究公開した。⁵⁾

終末の工夫 ... DVD 等を用いた映像資料の作成



ゲストティーチャーの効果的な活用

本時の「ふりかえり」や「かかわり」だけでなく、今までの自分と他者との「かかわり」を「ふりかえり」道徳的価値に迫るような工夫をした。

また、これからの自分を考えるメッセージ性を重視し、余韻を残して終わるような工夫をした。

教師の説話、ゲストティーチャーの話等、多様で効果的な終末について考えながら、その中の有効な手だての一つとして、位置づけている。

【4年生 DVD 資料「心あたたまる町“尾道”」より】



伝統・文化を素材とした学習では、ゲストティーチャーを活用すると効果的な場合が多々ある。人との「かかわり」という点からすると、このゲストティーチャーとの「かかわり」も非常に重要となる。今までは、ゲストティーチャーに、終末で登場していただき、児童の道徳的価値をより確かにするという活用のされ方が多かった。

本年度は、授業の導入や展開の部分でゲストティーチャーに登場していただき、児童と「かかわり」ながら、道徳的価値に迫る部分で、活用することを試みている。

【5年生「おのみち帆布物語」より】

(3) 道徳の時間以外で実践上重点を置いた事項

文化・伝統を取り上げた体験活動



学校教育全体を通して、総合的な学習の時間をはじめとした、多くの時間や場で、文化・伝統を取り上げ、継続した教育活動を行っている。その際、文化や伝統に触れ、体験し、実際にそのけいこの段階を意図的に踏ませている。また、子ども達自身が、自分でけいごするだけでなく、同学年や下学年の児童に対してもけいごをつける活動の場を設け、「伝統や文化を大切にする心を育てる」ことが、学力を高める学びの姿勢や道徳性を高めることにつながる、即ち、よいモデルに学ぶことにつながると考えて、取り組んでいる最中である。

【6年生「能のけいこ」より】

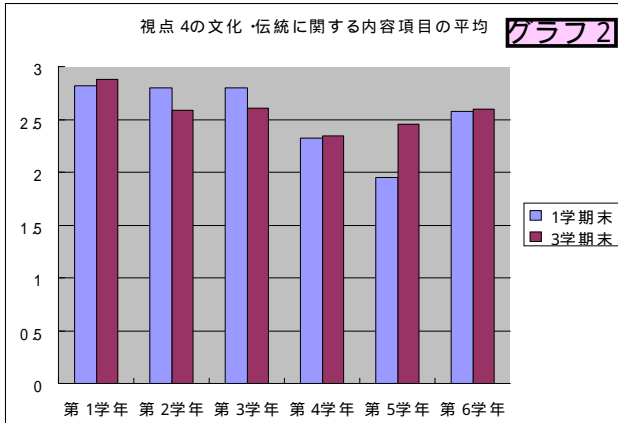
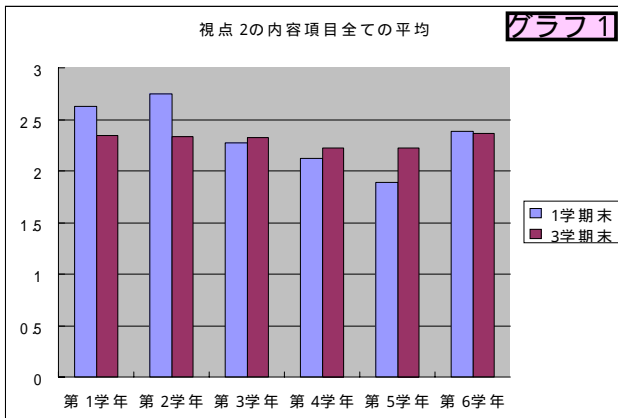
よりよいモデルに学ぶ学習

児童が単に<教えられるもの(学ぶもの)>としてだけでなく、<教えるもの>としての役割を果たすことを期待している。そして、<教える - 学ぶ>=<まねされる - まねする>という関係が、無意識に継続されるようでありたい。

<教師(大人) 児童>間の垂直関係の「かかわり」でのまねとともに、同学年児童間の水平関係の「かかわり」でのまね、異学年間のななめの関係の「かかわり」でのまねを有効に作用させ、けいごに着目した学びの段階を参考にしつつ、教育課程全体で児童の確かな学びと育ちを促していこうとしている。

【6年生の算数科の授業を参観する4年生】

5 第1年度の研究成果及び課題



アンケート調査は、質問項目に対して道徳の実現度が高い方から順に 3,2,1,0 と得点化し、まず、学級児童数で平均値を出した。それを内容項目毎に平均し、更に各視点毎の平均値を出した。

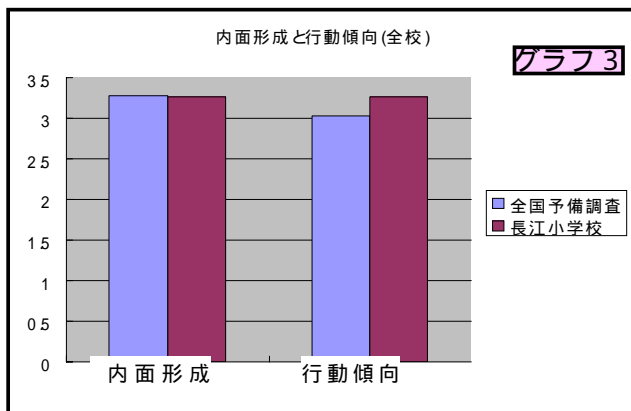


表 - 2

国語科の通過率	算数科の通過率
県平均 71.8%	県平均 75.5%
市平均 72.8%	市平均 78.5%
本校平均 84.3%	本校平均 89.0%

児童の道徳性の把握と指導への一助として、本校で作成した道徳性の全内容項目に対するアンケート調査、及び、道徳性診断テスト HEART (Human External Action and its Internal Reasoning Type) を実施した。

本校作成のアンケート分析によると、視点 2 は、低学年を除いて、全て道徳の実現度が上昇している。低学年の低下は、自分自身を見つめる力や全体状況を掴む力がついたため、自分に厳しくなった結果の低下と捉えている⁶⁾。第 6 学年に関しては、当初より模範となる学年として日々の生活を送っており、自分自身を見つめる力も最も安定しているため、変動が少ないと考える。3～5 年生での数値の上昇と、低学年がそれに近づいたという点、第 6 学年が高い数値を維持しているという点で成果が出ていると考えたい。

伝統・文化に関する項目では、2～3 年生で低下が見られる。これは、不審者や文化財を傷つける人の存在が強く意識されたための低下だと分析上わかっている。このことを、今後、自分が地域とどのように「かかわり」生活していけばよいかという郷土愛へつなげていくことが大切である。それでも、依然高い数値を示しており、他の学年の上昇を鑑みるに、成果が出ていると考えたい。

もともと、本校では、伝統・文化を取り上げる際、人との「かかわり」を介在させ学習を成立させており、それぞれの相乗効果だと考えている。

HEART の分析からは、本校の行動傾向が、全国規模の予備調査と比べて高いことがわかる。数値の小さな差だけをとって一概に言うことは、戒めなければならないが、内面形成と行動傾向のバランスがとれているということになる。

学力面については表 - 2 の通りで、広島県が第 5 学年を対象に実施している「基礎・基本」定着状況調査では、上昇傾向が継続している。

今後、けいこ(まね)に着目した学びの段階に留意し、一層、文化・伝統を大切に育てる心を育てる学習を人との「かかわり」と一体的に捉えて展開して、その体系化を目指したい。また、ミクロな視点から、全体を平均した数値では出てこない個々人の課題に積極的に対応していきたい。

6 参照できるホームページアドレス <http://www.bbbn.jp/~nagasyo/>

1) 『平成 15 年度 尾道市立長江小学校研究のまとめ』
 2) 『平成 16 年度尾道市立長江小学校研究紀要』『平成 16 年度尾道市立長江小学校研修のまとめ』に、授業の考察も含めて掲載。
 3) 『平成 16 年度尾道市立長江小学校研究紀要』 PP.17-34
 4) 前掲 2)を参照のこと。
 5) 前掲 2)を参照のこと。
 6) 『道徳性の診断と指導』 古畑和孝編著 東京心理 1999 pp.43-54 もともと、低学年は、中・高学年に比べて高い得点傾向を示すことは、他の道徳性診断テスト等においても指摘がある。